

2019年度 第2四半期 決算説明会

2019年11月13日

100年をつくる会社





2019年度 上期 決算実績

1. 事業環境等の振り返り
2. 業績ハイライト
3. 事業別の概況

1.事業環境等の振り返り

国内建設市場の動向

- 公共工事の発注は増加傾向、民間設備投資は非製造業を中心に底堅さを維持
- 労務・資機材の需給は総じて安定的に推移

当社の施策推進状況

- 生産性向上・省人化に向けた技術開発・実証・現場適用
- 国内外の開発プロジェクトの積極的な取り組み

2.業績ハイライト

前年同期比 増収減益、通期予想に対して概ね順調な進捗

単位:億円	2018上 実績	2019上 実績	前年 同期比	進捗率	期首 通期予想
売上高	8,977	9,471	+494	46.4%	20,400
営業利益	606	597	△8	50.4%	1,185
経常利益	721	650	△70	51.2%	1,270
※1四半期純利益	545	498	△47	55.3%	900
建設事業受注高	7,520	8,013	+492	45.5%	17,600
有利子負債残高	※2 2,987	3,015	※3+ 28	—	3,300

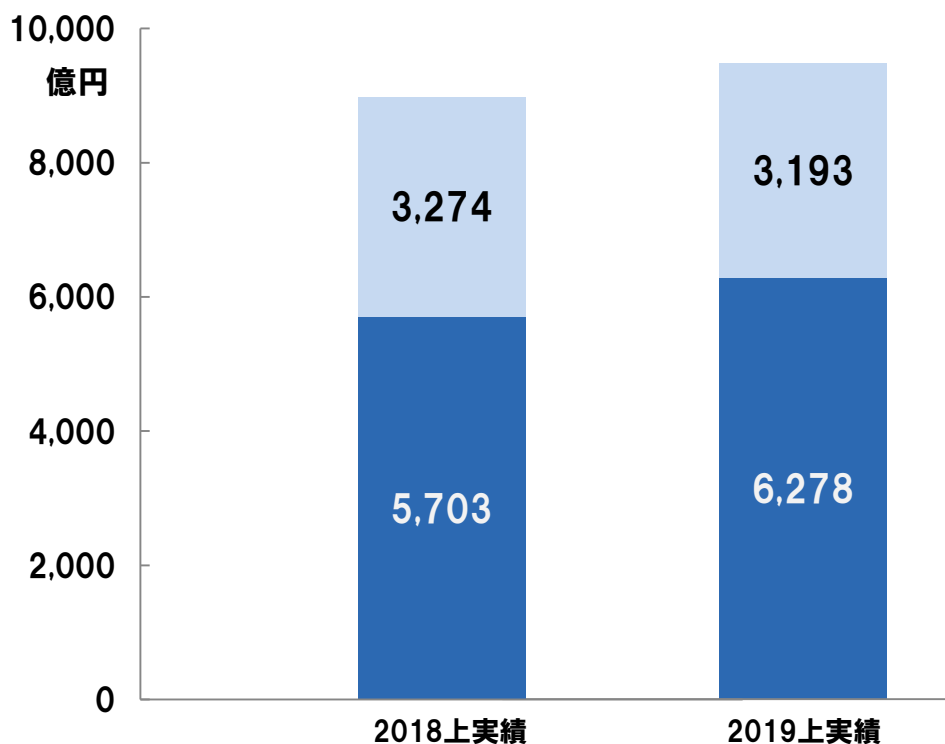
※1 親会社株主に帰属する四半期純利益

※2 2018年度末実績

※3 前年度末比

2.売上高

単位:億円	2018上 実績	2019上 実績	前年同期比
売上高	8,977	9,471	+494



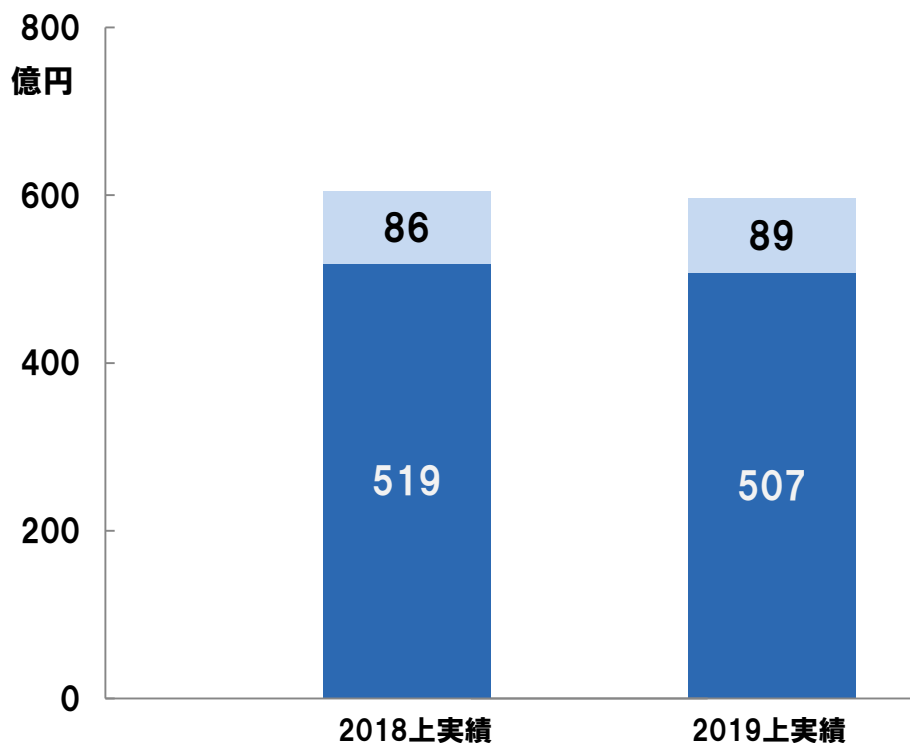
増減要因 (前年同期比)

- 単体建築事業 +554
- 国内関係会社 +151

■ 単体 ■ 子会社等

2. 営業利益

単位: 億円	2018上 実績	2019上 実績	前年同期比
営業利益	606	597	△8



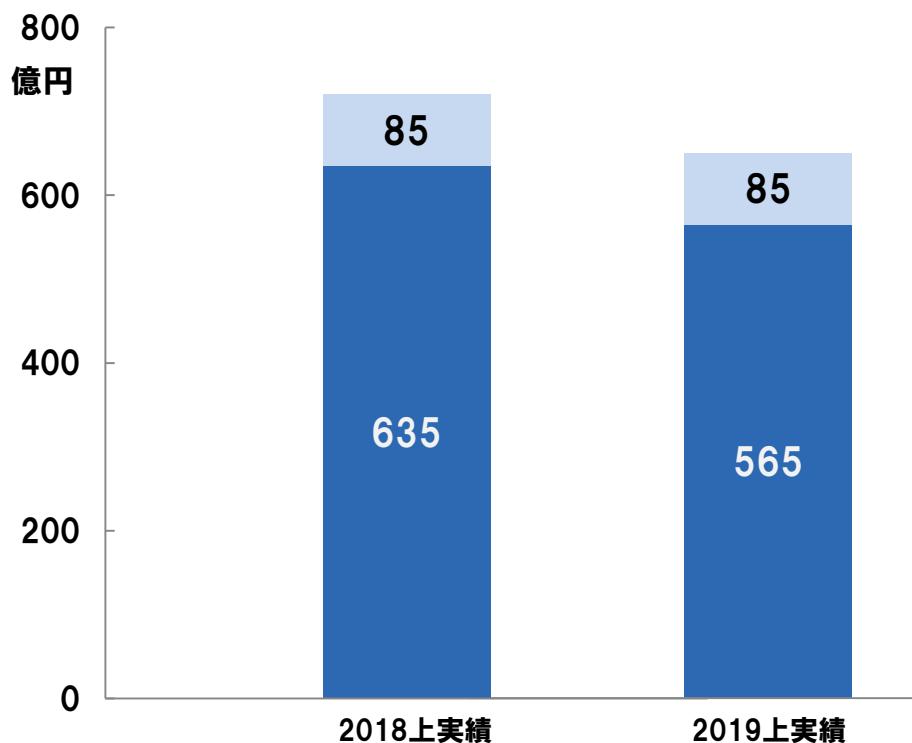
増減要因 (前年同期比)

- 売上総利益 (土木事業) $\Delta 41$
- 売上総利益 (建築事業) $+52$
- 販管費 $\Delta 28$

■ 单体 ■ 子会社等

2. 経常利益

単位: 億円	2018上 実績	2019上 実績	前年同期比
経常利益	721	650	△70



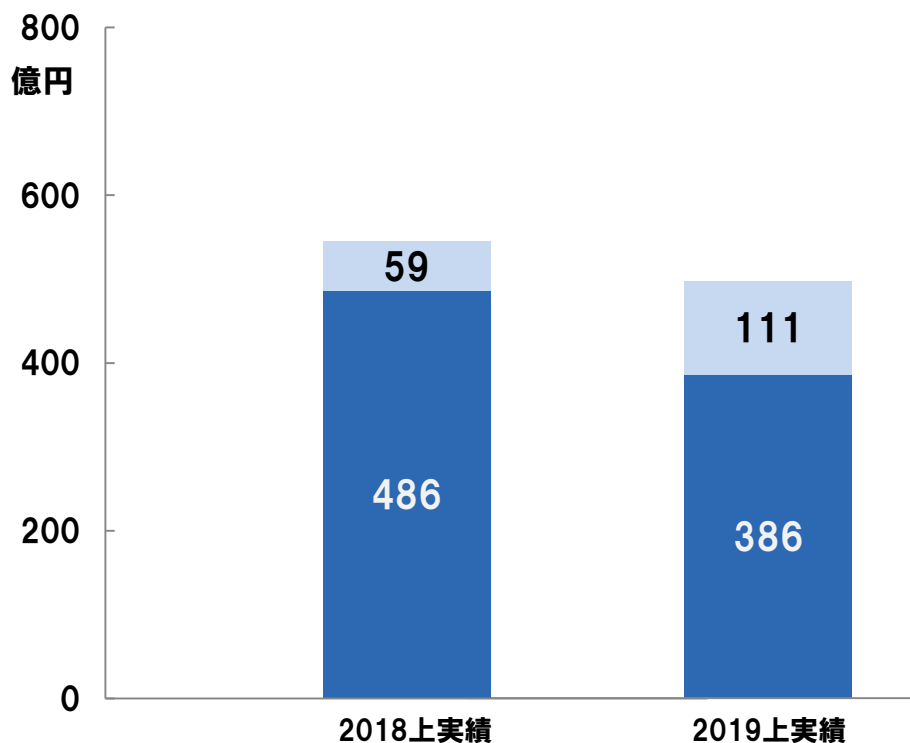
増減要因 (前年同期比)

➤ 営業利益	△8
➤ 営業外損益	△61
┌ 貸倒引当金戻入額	△39
└ 持分法投資損益	△18

■ 単体 ■ 子会社等

2.親会社株主に帰属する四半期純利益

単位:億円	2018上 実績	2019上 実績	前年同期比
四半期純利益	545	498	△47



増減要因 (前年同期比)

- 経常利益 △70
- 特別損益 +11
- 法人税等 +11
- 非支配株主持分 +0

■ 単体 ■ 子会社等

3.事業別の概況 ①土木事業(単体)

受注高

➤ 前年同期と同水準

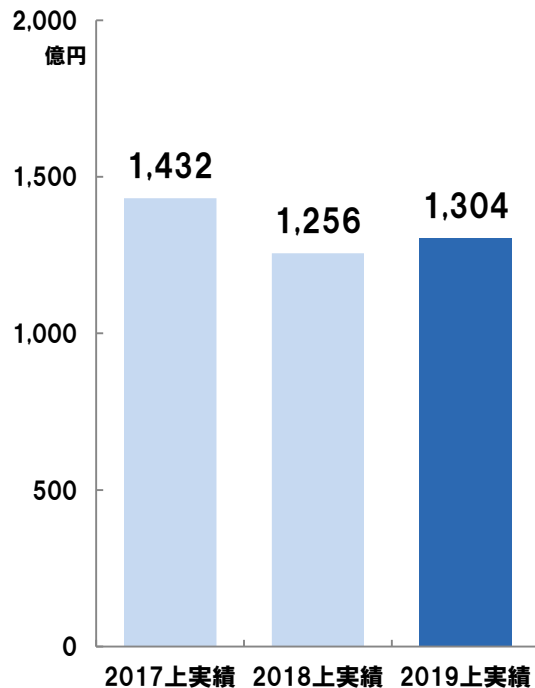
完成工事高

➤ 前年同期と同水準

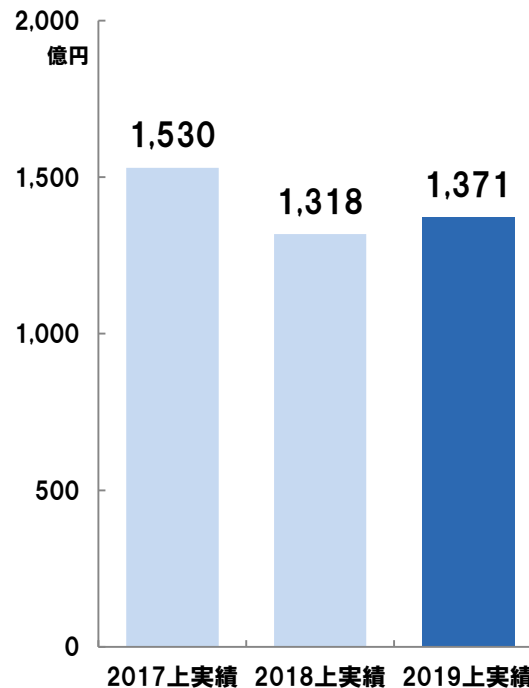
総利益

➤ 損益を改善した工事が少なく利益率が低下

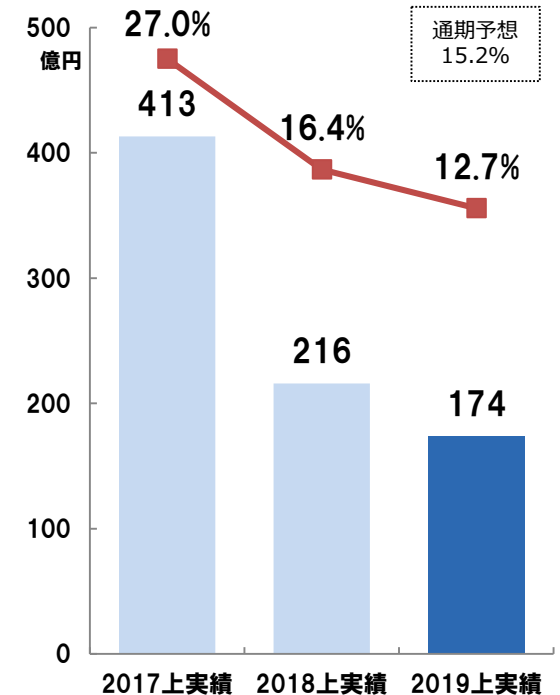
■受注高



■完成工事高



■完成工事総利益



3.事業別の概況 ②建築事業(単体)

受注高

➤ 大型工事の受注が増加

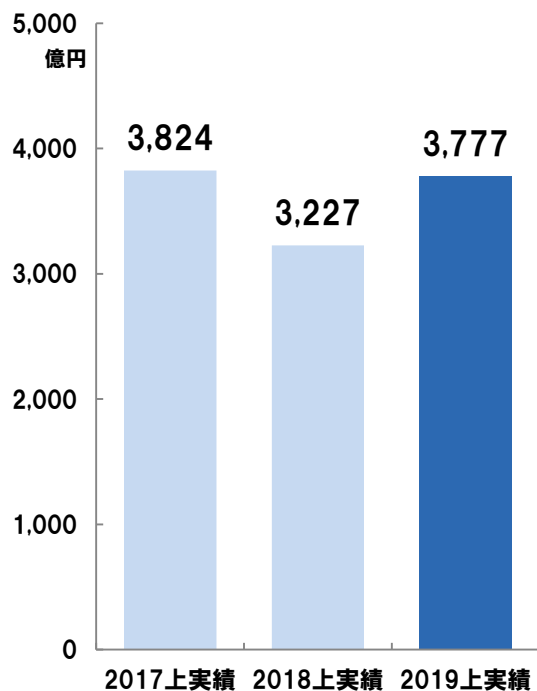
完成工事高

➤ 大型手持工事が順調に進捗

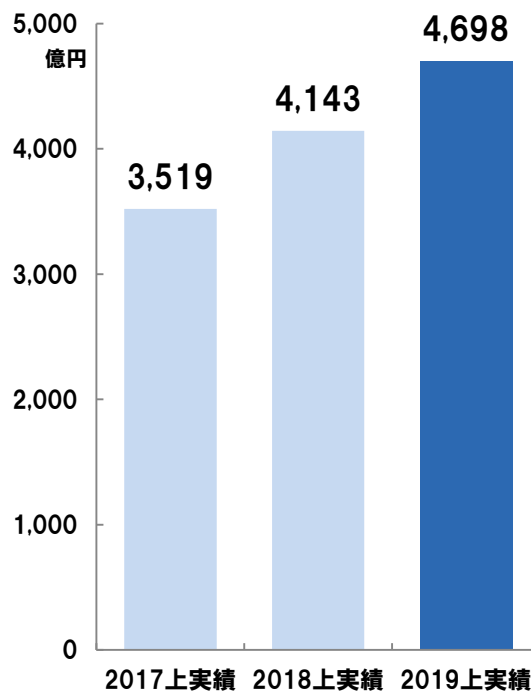
総利益

➤ 増収による増益

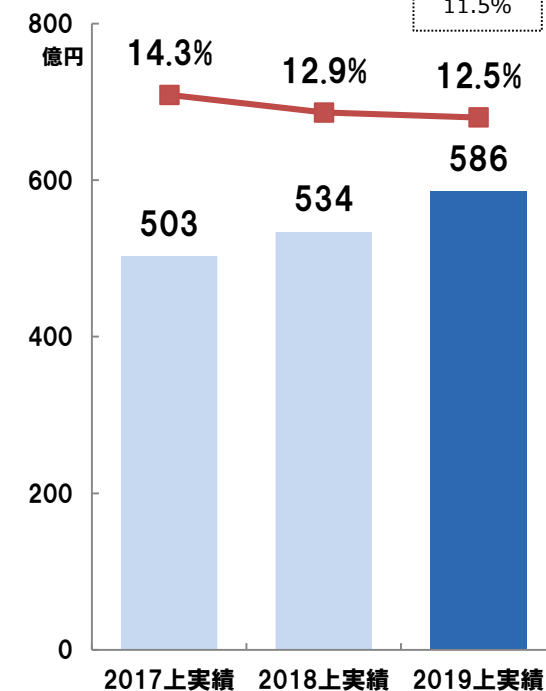
■受注高



■完成工事高



■完成工事総利益



3.事業別の概況 ③開発事業等(単体)

受注高

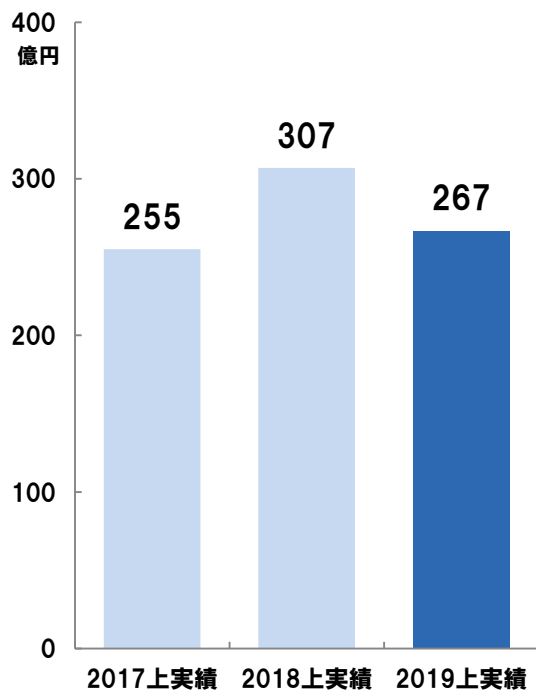
売上高

➤ 前年同期に鹿島プライベートリート投資法人へ保有資産を売却していたため減少

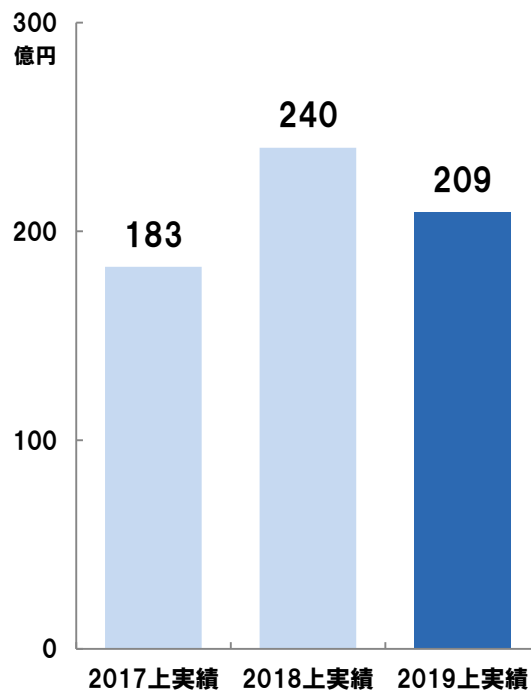
総利益

➤ 前年同期と同水準

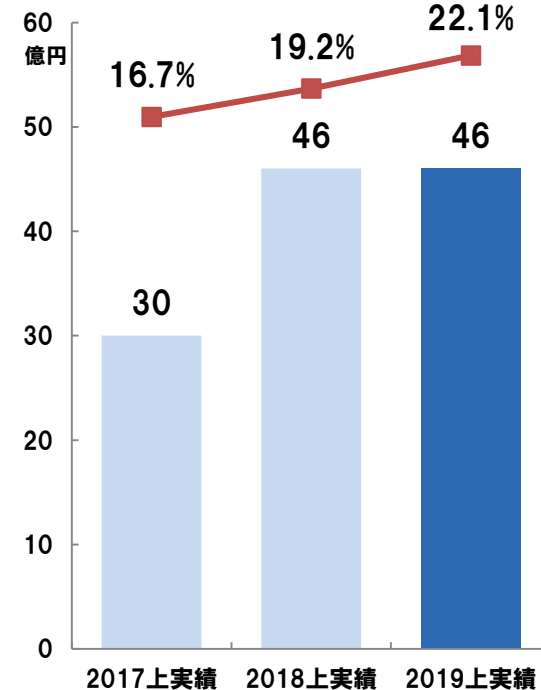
■ 受注高



■ 売上高



■ 売上総利益



3.事業別の概況 ④国内関係会社

受注高

➤ 内装工事、設備工事が増加

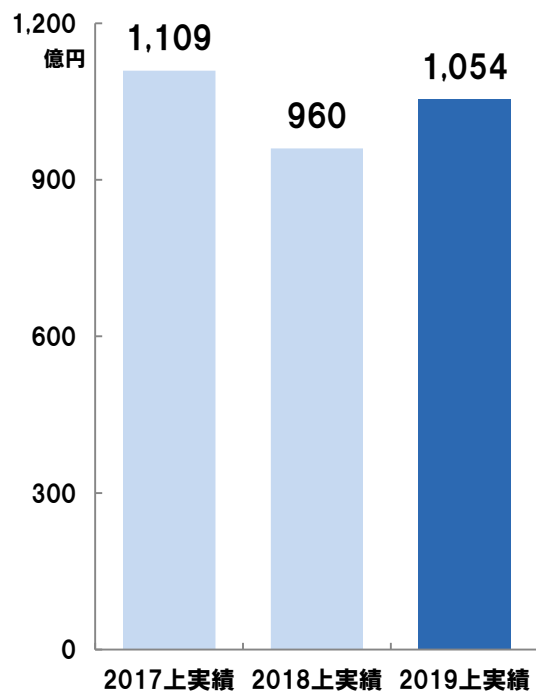
売上高

➤ 舗装工事、設備工事を中心に建設事業が増加

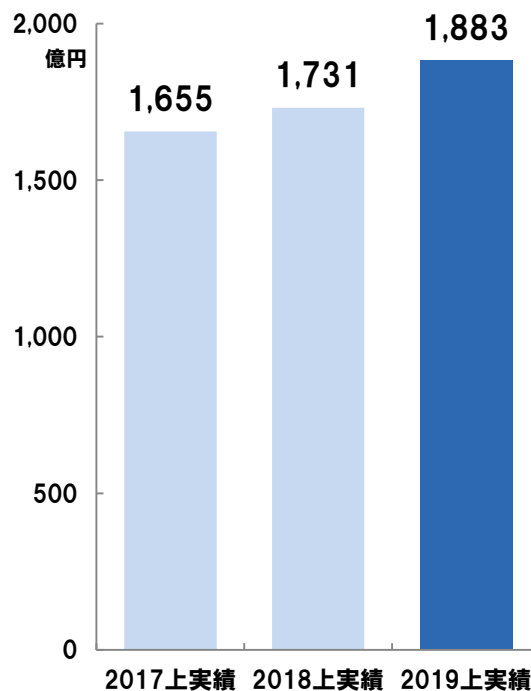
経常利益

➤ 増収に加え、建設事業・開発事業等とともに利益率が改善

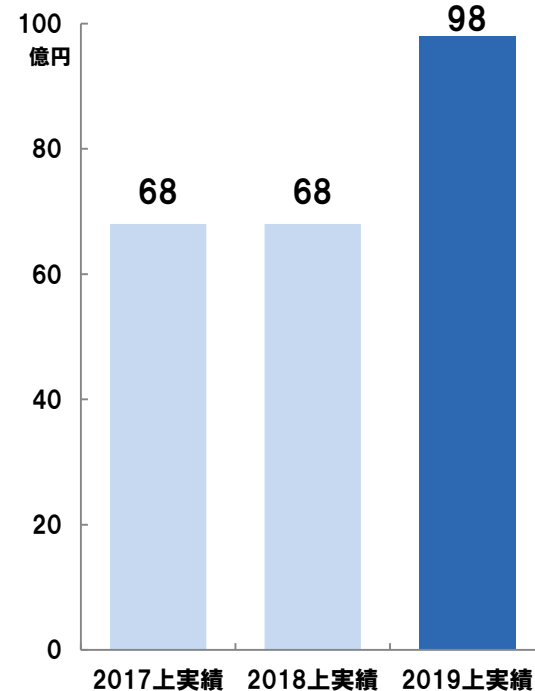
■建設事業受注高



■売上高



■経常利益



3.事業別の概況 ⑤海外関係会社

受注高

➤ 前年度に大型工事を受注した地域が減少

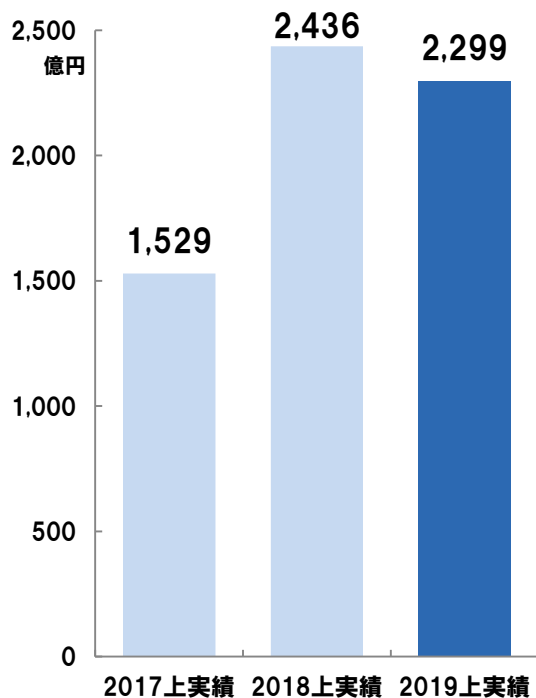
売上高

➤ 営業中案件の計画遅延等により減少

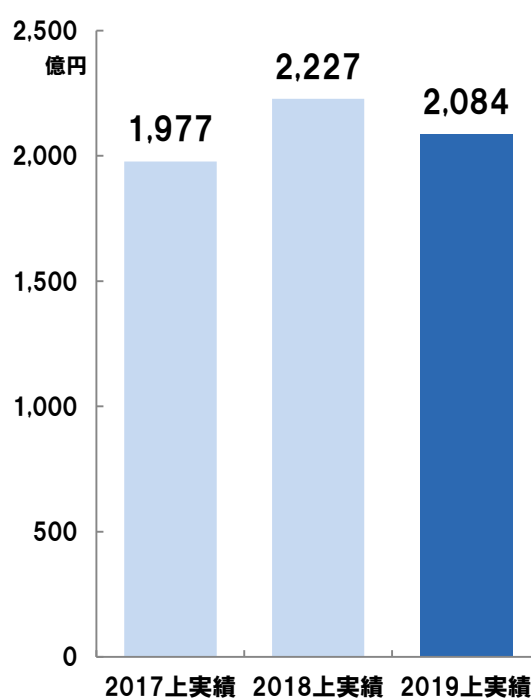
経常利益

➤ 売上高減少に加え、建設事業の利益率が低下

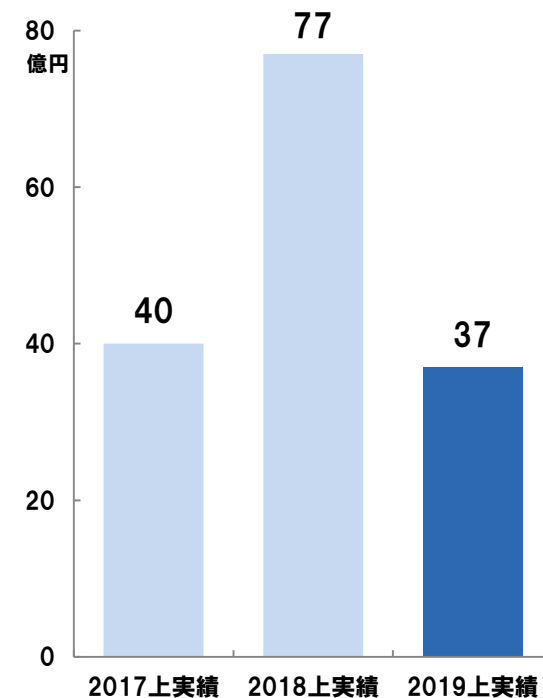
■建設事業受注高



■売上高



■経常利益





2019年度 通期 業績予想

1. 事業環境等の見通し
2. 業績ハイライト
3. 事業別の概況
4. 株主還元

1.事業環境等の見通し

国内建設市場の動向

- 貿易摩擦の長期化等により設備投資の先行きに不透明感
- 土木工事や民間設備投資を中心に堅調を維持する見込み

今後の取り組み

- 技術力、提案力を軸とする営業活動の強化
- パイロット現場における生産性向上に向けた技術開発、現場実証
- 業容が拡大する海外関係会社の経営基盤整備

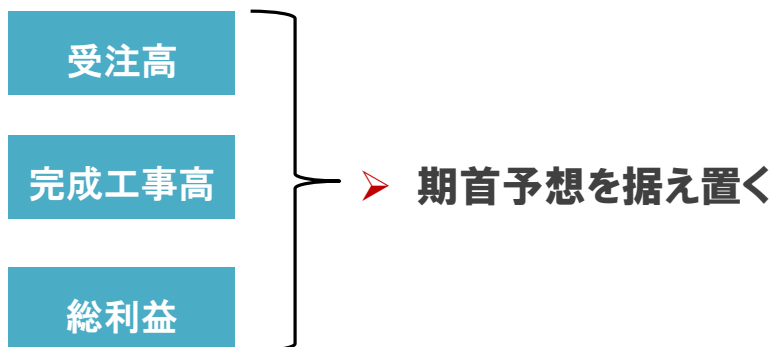
2.業績ハイライト

上期実績、今後の見通しを踏まえ業績予想を修正

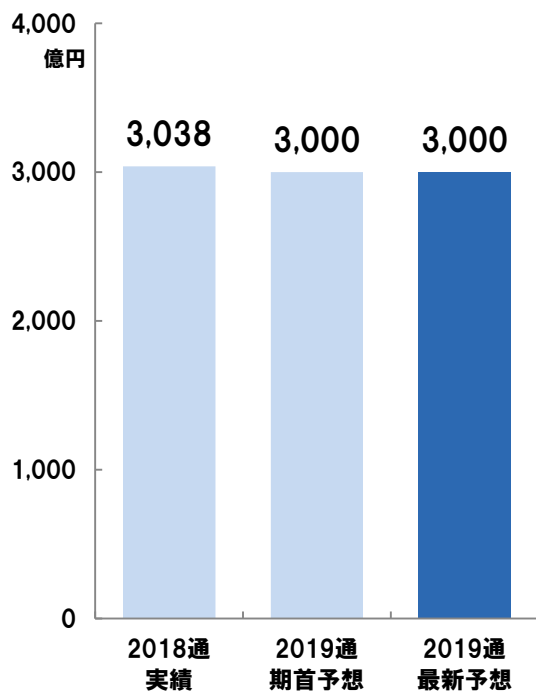
単位：億円	2018通 実績	2019通 期首予想	2019通 最新予想	前年度比	期首予想 比
売上高	19,742	20,400	20,000	+257	△400
営業利益	1,426	1,185	1,210	△216	+25
経常利益	1,629	1,270	1,300	△329	+30
※1 当期純利益	1,098	900	950	△148	+50
建設事業受注高	20,101	17,600	18,000	△2,101	+400
有利子負債残高	2,987	3,300	3,300	+313	±0

※1 親会社株主に帰属する当期純利益

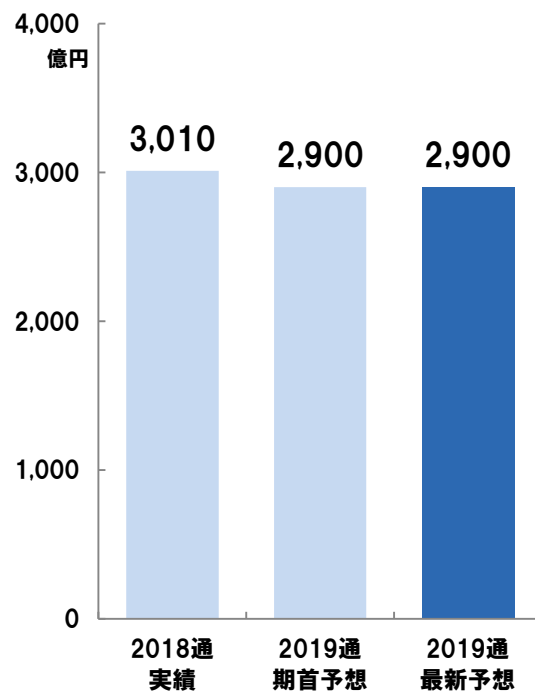
3.事業別の概況 ①土木事業(単体)



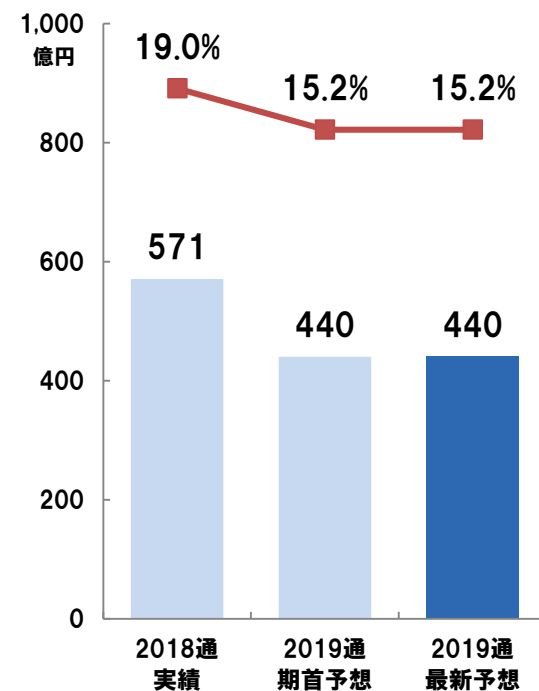
■ 受注高



■ 完成工事高



■ 完成工事総利益



3.事業別の概況 ②建築事業(単体)

受注高

➤ 期首予想を据え置く

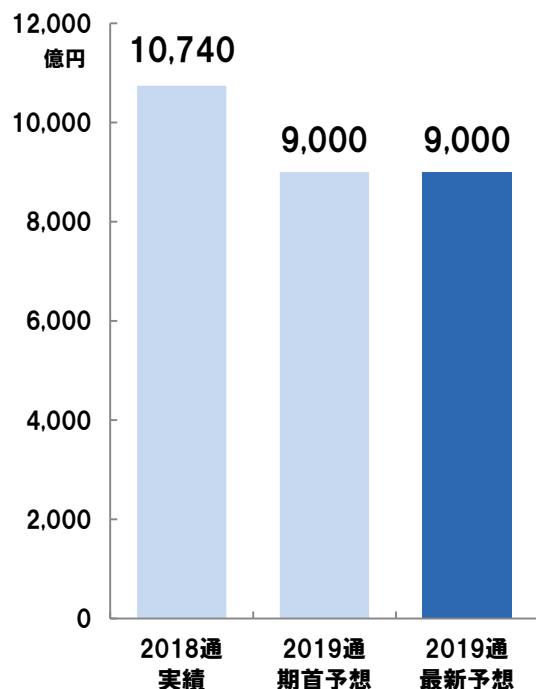
完成工事高

➤ 手持ち工事の順調な進捗を反映し上方修正

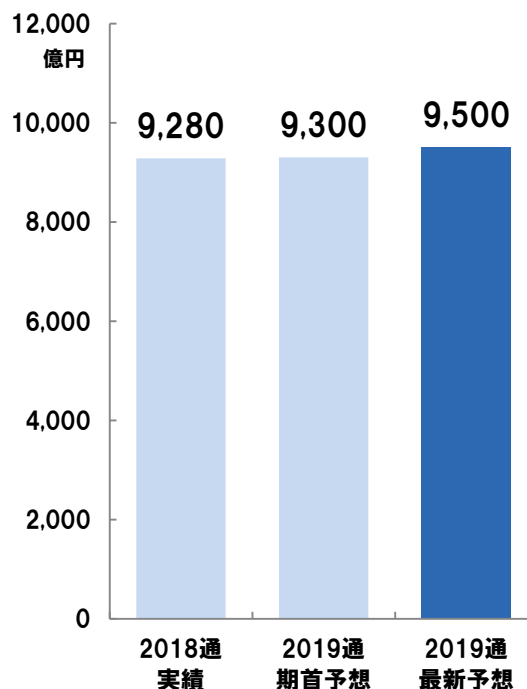
総利益

➤ 上期実績と手持工事等の状況を踏まえて上方修正
➤ 前年度と同水準の利益確保を見込む

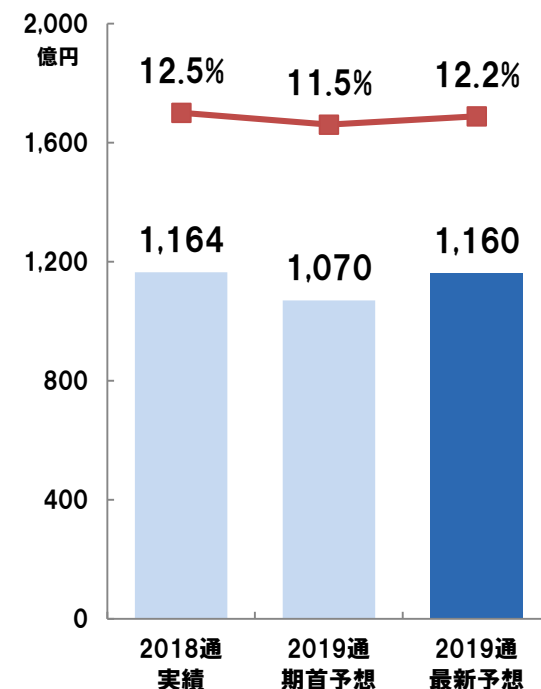
■ 受注高



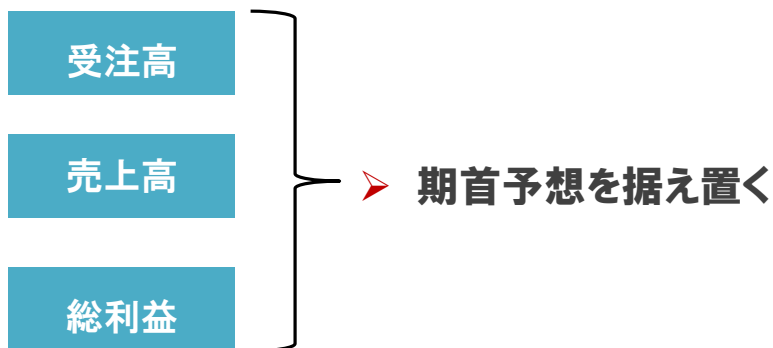
■ 完成工事高



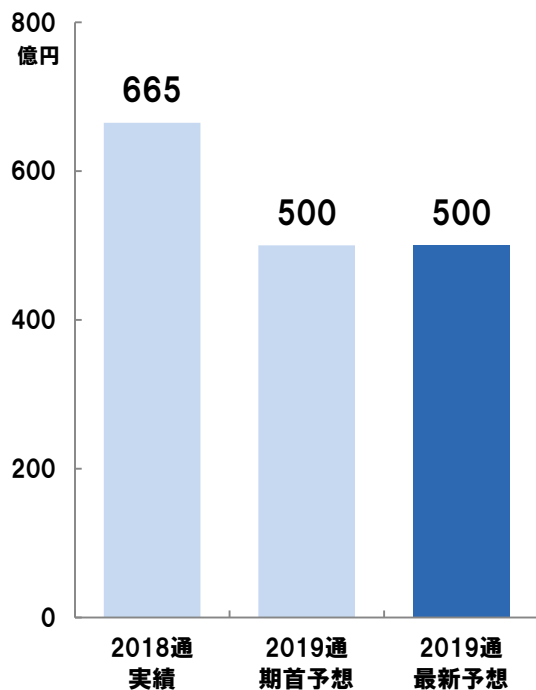
■ 完成工事総利益



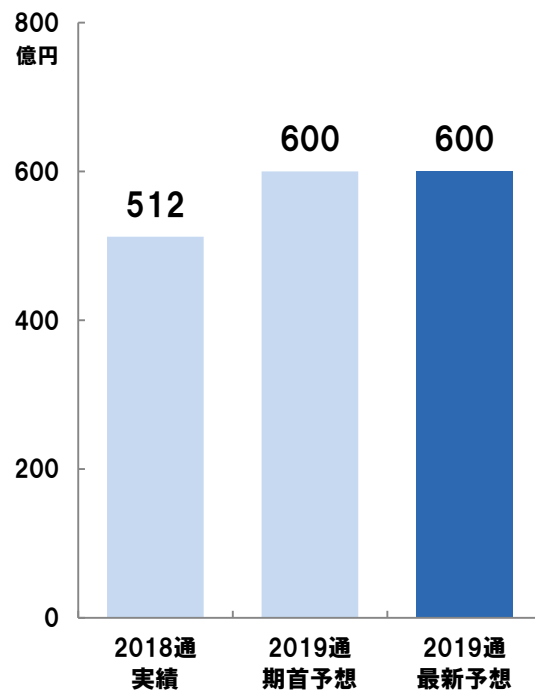
3.事業別の概況 ③開発事業等(単体)



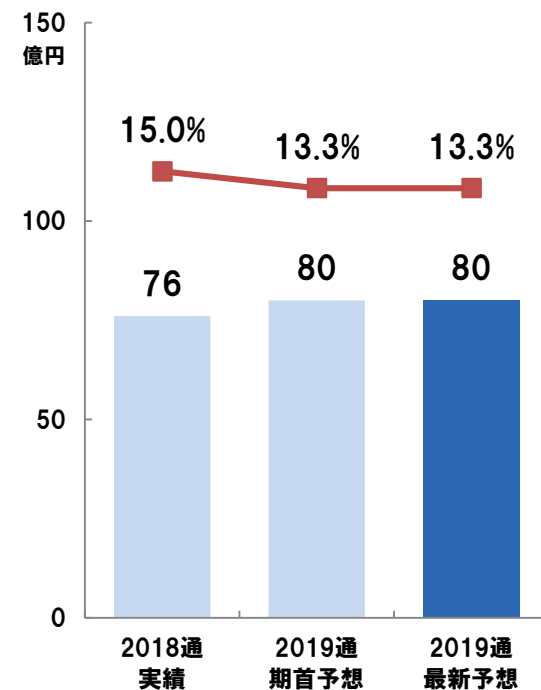
■ 受注高



■ 売上高



■ 売上総利益



3.事業別の概況 ④国内関係会社

受注高

➤ 内装工事、道路工事が増加

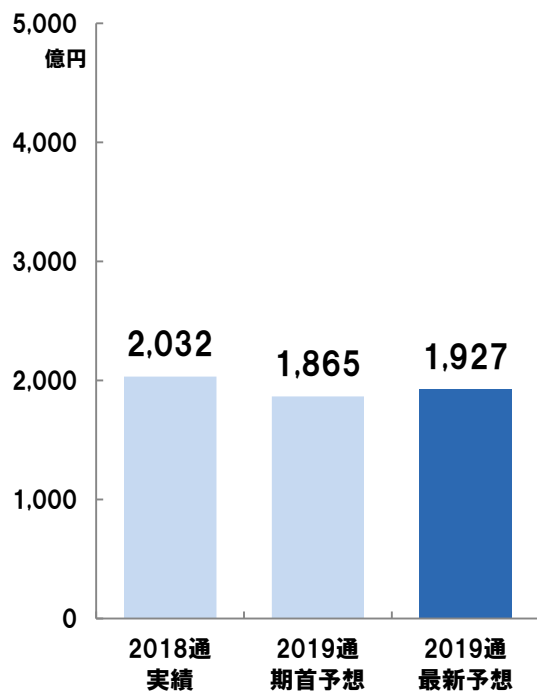
売上高

➤ 期首予想と同水準を見込む

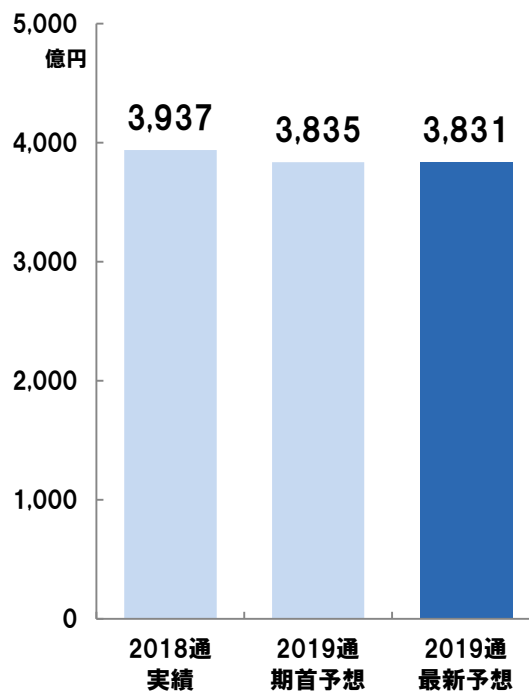
経常利益

➤ 建設事業の売上高増加を主因に増加

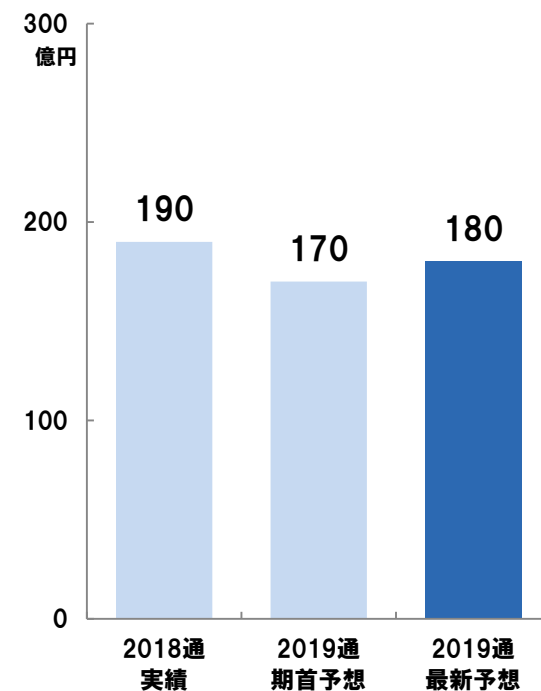
■ 建設事業受注高



■ 売上高



■ 経常利益



3.事業別の概況 ⑤海外関係会社

受注高

➤ KUSA(米国)や中鹿(台湾)が増加

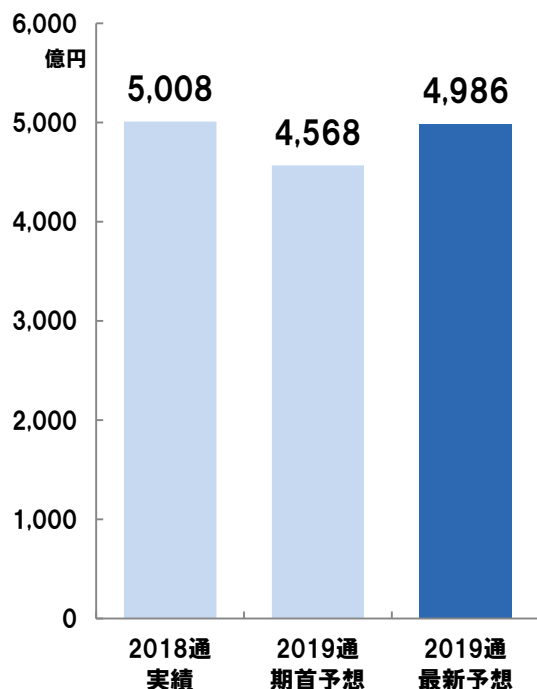
売上高

➤ 営業中案件の計画遅延を主因に減少

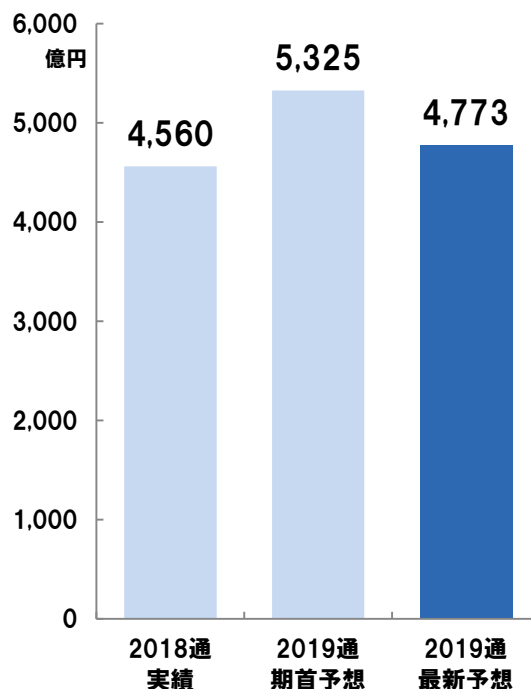
経常利益

➤ KA(豪州)等の工事損失により下方修正

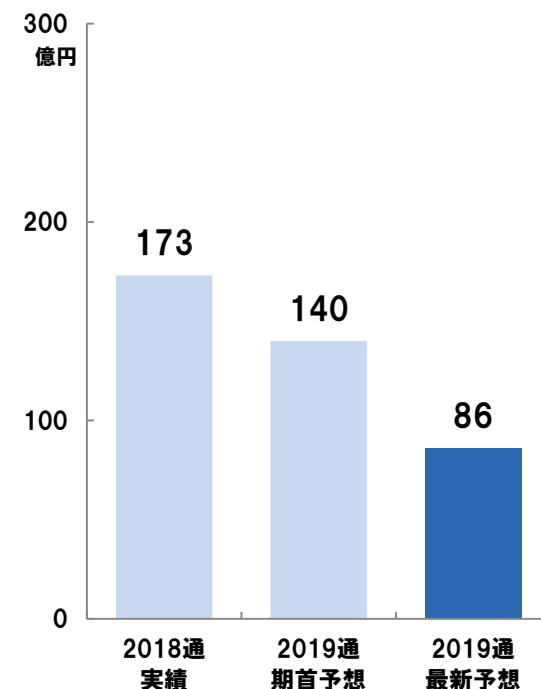
■ 建設事業受注高



■ 売上高



■ 経常利益



4.株主還元

配当金は期首予想を据え置く

	2017通 実績	2018通 実績	2019通 期首予想	2019通 最新予想
1株当たり 年間配当金	48.00円	50.00円	50.00円	50.00円
1株当たり 当期純利益	244.29円	211.67円	173.44円	184.94円
配当性向	19.6%	23.6%	28.8%	27.0%

当社は2018年10月1日付で普通株式2株につき1株の割合で株式併合を実施しており、2017年度及び2018年度に係る数値については、2017年度の期首に当該株式併合が行われたと仮定し算定しております。

<株主還元方針>

連結自己資本を確保しつつ、配当性向20～30%の範囲を目安に株主に対し安定的な配当に努めるとともに、業績、財務状況及び経営環境を勘案した株主還元を行うことを基本方針とする。

100年をつくる会社



お問合せ先

鹿島建設株式会社 経営企画部

コーポレート・コミュニケーショングループ

E-Mail : ir@ml.kajima.com

本資料に記載されている業績予想等の将来に関する記述は、本資料の発表日現在において入手可能な情報から得られた判断に基づいており、実際の業績は、様々な要素により記載の数値とは異なる結果となる可能性があります。